

第4回 九州角膜フォーラム

日時 2018年11月10日(土) 17:30 ~ 20:30

場所 ホテル日航福岡 3F「都久志の間」

会費 1,000円

17:30

第1部

【PART1】一般口演～感染症と関連疾患～

座長：杉田 直大先生(宮崎大学)

- ・「久留米大学病院で入院加療した未成年の感染性角膜炎の検討」 嵩 翔太郎先生(久留米大学)
- ・「真菌性角膜潰瘍・穿孔の保存的治療後にデスマ膜剥離を生じた1例」 親川 格先生(ハートライフ病院)
- ・「小児の角膜フリクテンに対する治療の検討」 横山 勝彦先生(大分大学)

【PART2】一般口演～薬物治療トピックス～

座長：上松 聖典先生(長崎大学)

- ・「角膜穿孔を生じた角膜フリクテンにおいて、外科的介入を回避できた1例」 芳原 直也先生(鹿児島大学)
- ・「アデノウイルス角結膜炎の難治性上皮病変に対する治療法について」 佐伯 有祐先生(福岡大学)

【PART3】教育講演

座長：門田 遊先生(久留米大学)

「アレルギー性鼻炎に対する最新の治療 —主にアレルゲン免疫療法について—」

九州大学病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科

澤津橋 基広先生

18:50

第2部 特別講演

座長：内尾 英一先生(福岡大学)

宮田 和典先生(宮田眼科病院)

「様々な角膜上皮障害における診断と治療」

東邦大学医療センター大森病院 眼科
教授 堀 裕一先生

19:50

第3部

チャレンジ難症例 - 強膜炎に立ち向かって -

座長：内尾 英一先生(福岡大学)
宮田 和典先生(宮田眼科病院)

- ・「強膜炎治療中に生じた角膜真菌症の1例」 中尾 功先生(佐賀大学)
- ・「強膜炎に合併した難治性真菌性角膜炎の1例」 子島 良平先生(宮田眼科病院)
- ・「羊膜移植が有効であった壞死性強膜炎の一例」 草野 真央先生(長崎大学)

※講演会終了後、情報交換会をご用意しております。

※お問い合わせ先 千寿製薬(株)九州支店 九州第一グループ 古谷 碧(092-271-2390)

特別講演

「様々な角膜上皮障害における診断と治療」

東邦大学医療センター大森病院

眼科 教授 堀 裕一 先生

我々の日常診療では数多くの角膜上皮障害に遭遇します。その原因として、様々な疾患が挙げられ、その鑑別は重要です。外来で頻繁に遭遇する角膜上皮障害の代表格としては、ドライアイがありますが、その際、ドライアイのサブタイプをしっかりと判別することが重要ですし、本当にドライアイなのか、緑内障点眼や防腐剤による薬剤毒性角膜症との鑑別も非常に重要です。ドライアイは軽症から重症まで様々であり、特にステークションソンや眼類天疱瘡などに合併するような重症ドライアイの治療は、涙点プラグや涙点閉鎖術などのドライアイの手術治療や、角膜上皮形成術や羊膜移植術などの外科的・眼表面再建術が必要な疾患も存在します。特に、羊膜移植は保険適応になって4年が経過し、羊膜バンクや術者の数も増加して今後もますます需要が増えていくものと思われます。さらに最近は、新しいハイパードライ羊膜(HD羊膜)といった新しい治療も出てきており、羊膜移植も新しい時代に入ってきた。

難治性の角膜上皮障害には、角膜神経障害が関与している症例も数多く存在します。知覚神経はサブスタンスPなどに代表される神経ペプチドを産生し、それが角膜上皮修復に大きく関連しています。最近、角膜領域では、涙液分泌と角膜知覚の関係が注目されています。角膜知覚神経には温度感受性受容体があり、これが涙液分泌をつかさどっていることが分かってきました。角膜の温度変化と知覚はオキュラーサーフェス領域の最新のトピックです。

本講演では、日ごろ遭遇する様々な角膜上皮障害における診療のコツや、外科的や内科的な様々な治療についてご紹介したいと思います。

教育講演

「アレルギー性鼻炎に対する最新の治療 —主にアレルゲン免疫治療法について—」

九州大学病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科

澤津橋 基広 先生

アレルギー性鼻炎の主な治療法には、第2世代抗ヒスタミン薬・ステロイド点鼻噴霧を中心とした薬物療法と、アレルゲン免疫療法がある。アレルゲン免疫療法は、症状の緩和、その効果の長期維持、薬物の量を減らす効果が認められており、対症療法である薬物療法とは明確に異なる治療法である。また、症例によっては寛解も期待できる。

近年、スギおよびダニによるアレルギー性鼻炎の免疫療法として、舌下免疫療法が普及してきた。本発表では、薬物療法、これまでの皮下免疫療法と舌下免疫療法との比較を交え、舌下免疫療法について解説し、更に新世代の経口腸管免疫療法の話題を提供する。

会場のご案内

